

《報 告》

公害健康被害認定を受けた気管支ぜん息高齢者の死に関する一考察

肥田 佳美¹⁾, 鬼頭 恵理²⁾

¹⁾ 椙山女学園大学看護学部, ²⁾ 愛知県知多保健所

要 旨

【目 的】

A県公害健康被害認定患者（以下、「患者」とする）のうち気管支ぜん息で認定された患者（以下、「BA患者」とする）の死亡の動向を把握し、死亡時の実態を明らかにして今後の患者支援に資することを目的とする。

【対象と方法】

対象は、BA患者のうち1974年～2005年の32年間に死亡した163人とした。

調査方法は、

- 1 死亡比はSMRを用い調査期間で対象を2群に分けた。Aグループ(昭和時代1988年以前の死亡者)、Bグループ(平成時代1989年以後の死亡者)とし男女別で動向をみた。
- 2 吸入ステロイド療法が開始になった1998年を境に対象を2群に分けた。Iグループ(1997年以前の死亡者)とIIグループ(1998年以後の死亡者)に分け比較検討した。
検定はt検定及び χ^2 検定を用いた。

【結 果】

SMRについては、男女共にA県より死亡率が高いが、平成の時代に入ると死亡率は激減し、特に女性は著明でありA県と比較した男女の差もなくなった。また、吸入ステロイドが使用開始になった1998年以降は死亡時の平均年齢の延長、老年人口割合の増加及び認定等級の軽症化がみられた。

キーワード：公害健康被害認定患者 ぜん息死 高齢者 ステロイド療法